ISSN 1340-4261

昆虫分類学若手懇談会ニュース

No. 98 (22. viii, 2022)

目次

事務局体制 1
会計報告 1
2021 年度総会の決議内容 2
2022 年度総会について 2
2022 年度若手懇シンポジウム（日本昆虫学会小集会）のご案内 3
幹事挨拶 5
訃報 5
会員異動 5
お知らせ 6

事務局体制

2022 年度も九州大学昆虫学教室が事務局を引き継ぎます．新しい事務局体制は以下の通りです．

幹事：外村俊輔（とむら　しゅんすけ）

会計担当：野崎翼（のざき　つばさ）

ホームページ担当：嶋本習介（しまもと　しゅうすけ），野崎翼

編集担当：嶋本習介，鈴木佑弥（すずき　ゆうや），鈴木信也（すずき　しんや），阿部純大（あべ　じゅんた），橋爪拓斗（はしづめ　たくと），野口奨悟（のぐち　しょうご）

会計報告

2021 年度決算（2021 年 4 月 1 日－2022 年 3 月 31 日）（円）

	収入	支出	次年度繰越金
前年度繰越金	502,601		
会費収入（2020 年以前分）			
ニュース発送経費		10,488	
OCGE3 開催経費		0	
昆虫学会小集会講演招聘費		30,000	
事務・雑務		1,980	
計	502,601	42,468	460,133

2021 年度総会の決議内容

2 月 27 日に Zoom を用いて開催されました本会総会の内容をお知らせいたします.

①会の運営についての問題点の指摘

前年度より継続する問題として，本会の事務局が 2015 年より九大から移転していないことが指摘されました．本会の強みのひとつは，普段はじっくりと話し合う機会があまりない異なる研究グループ（他大学・研究機関など）に属する学生同士が集まり，活発な情報交換や議論を行うことにあります．これにより，各々の研究グループが持っている問題意識や，協力して進めることのできる研究テーマなどを共有できるという大きな利点があります．近年は新型コロナウイルス流行に伴うリモート通信の普及によって遠隔の機関や異分野との交流のハードルは下がりました．本会でもオンライン昆虫学会議を 3 回にわたって開催し，その交流に大きく貢献しています．しかしながら，ここ数年は新入会員の大半が九大の事務局周辺の学生に占められている状態によりやむなく九大内で事務局が引継がれ，その結果小集会やオンライン学会の運営なども九大生が中心となり，大学間での共同運営が難しくなっております.

現状の打開のためには，オンラインでの交流などを通じて引き続き学生会員の新規勧誘を行い，シンポジウムやその他の活動案・要望を会員外の他大学の学生からも募ることで，日本の若手の分類学者が円滑に情報交換できるような場作りを改めて進めていく必要があります.

2022 年度総会について

例年，総会は 9 月に行われる日本昆虫学会において本会主催の小集会と共同開催しておりましたが，2020，2021 年度は新型コロナウイルス流行による学会の中止およびオンライン化のため，2 月に別途でオンライン開催をしておりました．今年度は，信州大学松本キャンパスにて日本昆虫学会第 82 回大会が対面で開催される運びとなりましたため，総会・会計決算の承認事項に関しては 9 月 4 日に行われる小集会に際して開催することを予定しています. 総会の開催は本会ホームページ（https://wakatekon.jimdofree.com/）およびメールでも通知いたします.

【開催日程】

日本昆虫学会第 82 回大会（2022 年 9 月 3～5 日：信州大学松本キャンパス）

日時：9 月 4 日 17：30～17：40

場所：信州大学松本キャンパス　学会 A 会場（若手懇シンポジウム会場）

2022 年度若手懇シンポジウム（日本昆虫学会小集会）のご案内

新型コロナウイルス流行の長期化や世界情勢の不安定化，ABS 関連の問題等により，海外での採集や昆虫標本の取り扱いが難しくなり，国内の昆虫標本に対する需要が高まっている．そこで本シンポジウムでは，分類学者にとって必須の材料である標本を活用する，あるいは自身の標本を活用してもらうために，研究者が行うべきことや実際の活用例を知り，自身を含めた研究者に還元，貢献していくことを目的とする．そこで，①受け入れられる標本の作り方，②標本調査のすすめ，③標本から DNA を取り出す，の 3 つのサブテーマを設定し，各講演者に自身の経験や実例をもとに自身の考えをご講演いただく．(敬称略)．

・大島 康宏（三重県総合博物館）「地域博物館における昆虫資料の収集と管理　-三重県総合博物館の事例から-」

・渡辺 恭平（神奈川県立 生命の星・地球博物館）「決して小さくない！標本調査のもつ意義」

・中濱 直之（兵庫県立大学/兵庫県立博物館）「Museomics のすすめ-標本から DNA 情報を取り出し活用する-」

参加される方，特に若手の分類学者が，自身の標本や収蔵されたコレクションを扱い研究するにあたって，貴重なお話を伺えると思います.

【開催日程】

日本昆虫学会第 82 回大会（2022 年 9 月 3～5 日：信州大学松本キャンパス）

小集会タイトル 『昆虫分類学若手懇談会シンポジウム「標本を活用するためのシンポジウム」』

日時：9 月 4 日　17：40～19：30

開催方法：対面（中濱様は Zoom ウェビナーを用いたリモート講演を行います）

【注意点】

※本会の小集会以外の講演に参加するためには日本昆虫学会第 82 回大会へのお申し込みが必要になります.

【講演要旨】

「地域博物館における昆虫資料の収集と管理　-三重県総合博物館の事例から-」

大島 康宏（三重県総合博物館）

博物館の資料収集活動は重要な業務のひとつであり，収蔵資料の充実はたいへん望ましいことである．昆虫資料を扱う博物館施設も国内に多く存在し，設置の目的やビジョン，収集方針は各館で異なるため，それぞれ独自性を反映したコレクションが構築されている．しかしながら，資料の収集・管理において，収蔵施設のキャパシティや，管理を行う学芸員数などの事情から，これらを限りなく実施することは難しい．これは多くの博物館施設共通の課題

であり，とくに昆虫分野は他分野に比べて資料数が非常に多いため，常に頭を悩ませる問題である．これらをバランスよく考え，より価値のあるコレクションを作り上げていくことは，学芸員の使命であり，その腕にかかっている．
三重県総合博物館は，自然史系と人文系資料を扱う総合博物館である．昆虫分野では，三重県とその周辺地域である紀伊半島や東海地方を中心に，国内外の資料の収集，保管・管理を行なっている．本講演では，地域博物館としての当館の資料収集方針やその手順などを，これまでの実例を挙げながら紹介する．あわせて，上述の課題への対策や，今後資料を活用しやすい状況を作るための取り組みについても紹介する．

決して小さくない！標本調査のもつ意義

渡辺 恭平 わたなべ きょうへい（神奈川県立 生命の星・地球博物館）

分類学者は主に標本のもつ情報に基づき生物の分類を行う．標本は野外調査で得ることもあるが，時間や産地の情報を充実させるためには，自然史博物館等に収蔵されている標本の調査が欠かせない．分類学者を志す人で，自身の所属以外の研究機関で標本調査を行わない人はまさかいないとは思うが，その意義やノウハウなど，漠然と考えている人も多いのではないだろうか．標本調査が分類学者に与えてくれるものは標本のデータだけではない．実はもっと大切なことがたくさんある．本講演では分類学者であり博物館学芸員である筆者の経験を例に，標本調査のもつ意義などの蘊蓄話を語りたい．
自然史博物館を世界で一番楽しめるのはおそらく分類学者である．野外調査に強く偏ってサンプリングばかり行っている人や，単に郵送で標本を借用している人は，実は大損をしているのである．もしもそういう方がいれば，ぜひ講演にお付き合いいただきたい．

Museomics のすすめ-標本から DNA 情報を取り出し活用する-

中濱 直之 なかはま なおゆき （兵庫県立大学/兵庫県立博物館）

国内外で莫大な数が収蔵される昆虫標本は，形態や分布情報だけでなく多くの情報を保持している．そのうち DNA をはじめとした標本の分子情報を利用した研究分野は Museomics と呼ばれ，2010 年代以降に海外を中心に急速に発展している．標本を利用することで，新たな入手の難しい個体も解析することができ，また過去の情報にも容易にアプローチができる．そのため，Museomics は昆虫学にとって大きなブレイクスルーをもたらすと期待される．その一方で，国内ではまだまだ研究例が限られているのが現状である．
本講演では，国内における Museomics の隆盛を目的として，以下の 3 点を中心に概説する．
①DNA を保存する昆虫標本の作製手法，②昆虫標本からの DNA の利用方法，③昆虫標本を

利用する際の注意点．さらに，ゲノムレベルの解析が一般的になることが期待される昨今において，Museomics の将来的な展望についても述べたい．

幹事挨拶

457 外村 俊輔（とむら しゅんすけ : 九州大・生資環・昆虫・D2）

　今年度より，本会の幹事を務めさせていただきます外村俊輔と申します．私は九州大学昆虫学教室に所属し，マルハキバガ科（鱗翅目キバガ上科）の分類と生態の研究を行っています．本科は東洋区からオーストラリアを中心に世界中に分布し，種多様性が高く，交尾器の形態が多様化しており，これまで包括的な研究が殆ど行われておらず，科を定義する形質が明確ではないことから，分類体系が混乱しています．国内からは多くの未記載種や属不明種が南西諸島を中心に発見されており，形態と分子情報を用いて主に国内の種や属の分類体系の整備を目指しております．また，鱗翅目の殆どが植食者で，植物との共進化に伴い多様化したとされているのに対し，本科は殆どが腐植食者，菌食者で構成されています．また，本科は種内の遺伝的多様性や幼虫の食性の範囲が潜在的に広いことが示唆されており，他の鱗翅目と異なる多様化の歴史があると考えています．その解明のために，地理的隔離，幼虫の食性と腐植物分解機構，交尾器の形態を中心として研究に取り組んでおります．

　本会の運営にあたり，会員の皆様には多くの面でご助力頂くことがあると思います．今年度も本会をよろしくお願い致します．

訃報

本会会員の中西明徳さん（会員番号 18）が逝去されました．謹んでご冥福をお祈りいたします．

会員異動

<新入会員>

463　田中宏卓
464　鈴木信也
465　花岡朋哉
466　河合諒人
467　廣瀬勇輝
468　千田喜博
469　鈴木佑弥

<退会>

18　中西明徳 (逝去)
149　久保田正秀
173　鶴崎展巨

会員数： 259 名

お知らせ

ご住所・ご所属やメールアドレスの変更をされた方は，事務局メールアドレス wakatekon@yahoo.co.jp までお伝えいただきますよう，よろしくお願いいたします．また，会員の方で本誌が届いていない方をご存じでしたら，本会までのご連絡にご協力のほどよろしくお願いいたします．

昆虫分類学若手懇談会ニュース　No. 98
発行日：2022 年 8 月 22 日
編集・発行：九州大学農学部昆虫学教室
昆虫分類学若手懇談会事務局
〒819-0395　福岡県福岡市西区元岡 744 ウエスト 5 号館 523 号
電話：092-802-4573
事務局 E-mail: wakatekon@yahoo.co.jp
年会費：無料